

地域再生計画（ 道整備 交付金）事後評価調書

都道府県名	愛知県	事業実施主体	愛知県、豊田市、みよし市	地域再生計画名	「おいでん」とよた「いいじゃん」みよしまちづくり計画
計画期間	平成22年度～平成26年度	評価責任者	豊田市建設部長 磯谷裕司、みよし市都市建設部長 小嶋俊和		

	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	地域内および地域外におけるアクセス向上・交流増加による産業の活性化（労働力人口）	253千人	H17	-	-	-	259千人	H26	261千人 (推計値)	○	労働力人口は、豊田市では226千人（H17）から231千人（H26推計値）、みよし市では27千人（H17）から30千人（H26推計値）と両市ともに増加しており、両市の合計値は253千人（H17）から261千人（H26推計値）に8千人（約3%）の増加がみられ、目標値を達成した。
	指標 2	住みよいまちだと思住民の割合の増加	68.1%	H19	-	-	-	77.3%	H26	75.1%	△	「住みよいまちだと思住民の割合」は、豊田市では65.4%（H19）から73.3%（H26）に上昇、みよし市では87.7%（H17）から87.4%（H26）とほぼ横ばいであり、両市の人口で加重平均した合計値は68.1%（H19）から75.1%（H26）に7%の増加はみられたものの、目標値には若干届かなかった。
	指標 3	震災時における住民の避難、消防、医療活動、緊急物資の輸送活動の円滑かつ確実な実施のための緊急啓開道路の未確保地区	7地区	H21	-	-	-	0地区	H26	0地区	○	本事業により農山村地域間を結ぶ道路が整備され、震災時における住民の避難、消防、医療活動、緊急物資の輸送活動の円滑かつ確実な実施のための緊急啓開道路の未確保地区が解消された。 ※緊急啓開道路：緊急時の交通ネットワークの確保にあたり、国・県・市の緊急輸送道路を補完する道路であり、豊田市の地域防災計画に位置付けられた道路
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	従業者数 (豊田市、みよし市)	294千人	H21	-	-	-	-	H26	308千人	-	従業者数は、豊田市では258.0千人（H21）から270.5千人（H26）、みよし市では35.7千人（H21）から37.5千人（H26）と両市ともに増加しており、両市の合計値は293.7千人から308.0千人に14.3千人（約5%）の増加がみられた。
	指標 2	製造品出荷額等 (豊田市、みよし市)	991百億円	H21	-	-	-	-	H25	1,359.6百億円	-	製造品出荷額等は、豊田市では910.7百億円（H21）から1,270.7百億円（H25）、みよし市では80.2百億円（H21）から89.0百億円（H25）と両市ともに増加しており、両市の合計値は990.9百億円から1359.6百億円に368.7百億円（約37%）の増加がみられた。
	指標 3	有効求人倍率 (豊田市、みよし市)	0.36倍	H21	-	-	-	-	H26	0.84倍	-	豊田公共職業安定所(豊田市・みよし市)の有効求人倍率は0.36倍（H21）から0.84倍（H26）に増加傾向に推移しており、労働力需給の改善の動きがみられる。
	指標 4	生活道路整備に対する満足度 (豊田市)	17.6%	H21	-	-	-	-	H26	23.9%	-	豊田市における「歩行者や自転車利用者が安全で快適に移動できる道路が整っているまち」に対して満足している割合は、17.6%（H21）から23.9%（H26）に6.3%の増加がみられ、市民の満足度が向上した。
	指標 5	道路整備に対する満足度 (みよし市)	47.4%	H18	-	-	-	-	H26	53.7%	-	みよし市における道路整備に対して満足している割合は、47.4%（H18）から53.7%（H26）に6.3%の増加がみられ、市民の満足度が向上した。
	指標 6	交通事故死者数 (豊田市、みよし市)	18.6人/年	H17～H21	-	-	-	-	H22～H26	15.0人/年	-	年平均の交通事故死者数は、豊田市では17.0人/年(H17～H21)から13.8人/年(H22～H26)、みよし市では1.6人/年(H17～H21)から1.2人/年(H22～H26)と両市ともに減少しており、両市の合計した年平均の死者数が18.6人/年(H17～H21)から15.0人/年(H22～H26)、増減率がマイナス19.4%と死者数の減少がみられた。しかしながら、愛知県の増減率マイナス30.9%を下回っている状況である。
	指標 7	山村地域の流出口 (豊田市)	2.2%	H21	-	-	-	-	H26	2.3%	-	豊田市における藤岡地区、小原地区、足助地区、下山地区、旭支地区、稲武地区の6地区の総人口に占める流出口比率は概ね2～2.5%の間で推移しており、H21年とH26年を比較しても大きな変化はなく、横ばいの状況である。
	指標 8	木材生産量 (豊田市)	29,400m ³	H21	-	-	-	-	H26	39,390m ³	-	豊田市における木材生産量は、29,400m ³ （H21）から39,390m ³ （H26）に9,990m ³ 増加（約34%）している。
	指標 9	森林整備作業 (豊田市)	143.6人	H17～H21	-	-	-	-	H22～H26	158.6人	-	豊田市における年平均の森林整備作業（豊田森林組合）は、143.6人（H17～H21）から158.6人（H22～H26）に15人増加している。
	指標 10	防災対策に対する満足度 (豊田市)	40.3%	H21	-	-	-	-	H26	44.6%	-	災害時・緊急時の住民の安全を確保する道路整備により、豊田市における防災対策に対して満足している割合は、40.3%（H21）から44.6%（H26）の増加がみられ、市民の満足度が向上した。

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度 (H)	最終実績	
特別の措置を適用して 行う事業	市道整備事業（整備延長）	19,430m	—	17,550m	<p>【達成されたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回整備された道路が、企業誘致・新産業の立地誘導等に寄与したことにより、アクセス向上・交流増加による産業の活性化や通勤時の渋滞解消、自動車関連工場・事業所等へのアクセス向上、住民の安全性・利便性向上及び生活の向上等に寄与した。 ・都市と農山村間や各地区間を結ぶ幹線道路へのアクセス道路整備により、自動車等による移動の利便性向上と円滑化に寄与した。 ・豊田市の農山村部では、緊急啓開道路上の落橋防止対策により、地域間を結ぶ道路が整備されたことで、災害時や緊急時に国道、県道等の重要路線までアクセスできなくなる地域分断が解消された。 ・住民の避難、医療活動、物資輸送活動を円滑に実施できる市道整備により、災害時・緊急時の住民の「助けられる命」の増大に寄与した。 <p>【事業後に残された課題、新たな課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業活性化に寄与することが期待される道路の中には、事業中のもも残っており、早期供用が求められている。 ・道路整備の市民満足度は増加傾向にはあるものの、人口1万人当たりの交通事故死者数は0.41人（平成25年）と愛知県平均0.29人（平成25年）に比べ高く、今後も安全・安心な生活基盤の整備が求められる。 ・農山村の過疎地域は、都市部等への人口流出により過疎化・高齢化、農地や森林の荒廃が進んでいる。
	林道整備事業（整備延長）	5,565m	—	5,416m	<p>【達成されたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林道整備により、森林施業の効率化とともに、既存の国道、県道やその他の道路との広域交通ネットワークが整備され、林業振興に寄与した。 <p>【事業後に残された課題、新たな課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市部と農山村部を結び、回遊性の向上を図る林道および市道整備が進められているものの、十分に整備されているとはいえない状況にあるため、引き続き計画的な事業推進が必要である。
その他の事業	階層的製造業人材育成の推進	産学官の連携による系統的なものづくり人材育成システムの構築			人材育成プログラム修了者がグループリーダーとして他の製造技術者の指導を行うとともに、新技術開発などを通して地域企業の持続的な発展に貢献することが期待される。
計画外で独自に実施した事業	地域再生人材創出拠点の形成	「産・学・官」の三者が一体となって「ものづくりを一気通観できるエンジニア創出」拠点を形成			ものづくりの構想・企画から最終工程まで一連の工程を見通す能力を養成するため、企業技術者と学生で混成したチームを編成し、実践的なプログラムを実施した。地元経済状況が必ずしも良くない中で、受講生を初期の目標を超えて受け入れており、修了者数は初期の目標を超えて達成した。
④評価方法	事後評価委員会を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。				
⑤事後評価の公表方法	豊田市建設企画課、みよし市都市整備課のホームページに掲載				
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に実施し、市道整備では整備が事業の進捗に伴い年度間調整を行うなど整備段階にあわせた予算措置が実施できたため、地域内外のアクセス向上や、安全で快適性のある道路環境の向上、農山村部での林業振興などの効果が概ね発現してきたと考えている。				
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、円滑に整備が進んでおり、目標をほぼ達成することができた。しかし、豊田市の農山村部において、都市部への人口流出により過疎化・高齢化が進み、農地や森林の荒廃が進んでいるほか、豊田市の交通事故死者数は、愛知県下でワースト上位であり、人口1万人当たりの交通事故死者数は愛知県平均に比べ高く、また、高齢者の交通事故死者数も高い割合である。 このような状況から、豊田市において、豊富な地域資源がある本市の強みを活かし、都市部と農山村部の人や物などの循環を活発にし、豊かさが実感できるまちづくりを進めるとともに、日常生活において都市部と農山村部と相互に依存しながら一体的な生活圏を形成し、市民が安全で快適に利用できる道路、林道の整備を進める必要がある。				